

令和3年度 第5回 福井警察署協議会 開催結果

(午前の部)

1 日時

令和4年3月2日(水) 午前10時30分から

2 場所

福井警察署

3 出席者

- 協議会委員 4名
- 福井警察署 副署長以下6名

4 内容

- (1) 協議会副会長挨拶
- (2) 福井警察署副署長挨拶
- (3) 業務報告

ア 生活安全課・刑事課関係

- (ア) 刑法犯の認知、検挙状況
- (イ) 特殊詐欺被害の認知状況
- (ウ) 声かけ・つきまとい事案の認知、検挙状況
- (エ) ストーカー・DV事案の認知、検挙状況
- (オ) 各種事故抑止・検挙対策の実施状況
- (カ) 各種犯罪の検挙状況

イ 交通課関係

- (ア) 令和3年中の交通事故発生状況
- (イ) 交通死亡事故現場の状況
- (ウ) 自転車教室
- (エ) 自転車利用者への啓発活動
- (オ) 体験型交通安全教室
- (カ) 反射材普及活動
- (キ) 新たな交通規制への対応
- (ク) 飲酒運転根絶に向けた活動
- (ケ) 飲酒運転取締り結果
- (コ) 交通特殊事件の検挙
- (セ) その他
- (ソ) 今後の方針

ウ 警備課・地域課関係

- (ア) 大規模警備の完遂
- (イ) 有事に備えた各種訓練の実施

エ 警務課関係



- (ア) 職場執行能力の強化に向けた教養の推進
 - (イ) 将来の優秀な警察官確保に向けて
 - (ウ) 新型コロナウイルス感染症対策
- (4) 質疑応答

【委員】

飲酒運転による事故はどれくらいの割合か、その数は他県や全国レベルから見て多いかどうか教えてほしい。

【警察】

昨年の飲酒運転の事故は、前年より増加した。過去6年間の飲酒事故については、減少傾向にある。これは、飲酒運転の厳罰化、各種飲酒運転の取締り、広報啓発活動の結果だと言える。

人身事故・物損事故の増加については、昨年1月の大雪が大きく影響していると思われる。今年は、比較的雪が少ないということで、現在、人身事故件数については前年と比べ増加したが、物損事故については大きく減少している。

【委員】

ゲーム賭博や違法デリヘルの話の中で、外国人が絡んでいると聞いたが、外国人が増えることによって犯罪が増える傾向はあるのか。

【警察】

外国人が増えると犯罪が増えるとは一概には言えない。統計はとっていないが、外国人が関わる事件が増えているように感じる。

【委員】

自転車への当たり屋の事件は初めての検挙と聞いたが、今までにも当たり屋の事件はあるのか。

【警察】

車に対する当たり屋は過去にもあったが、自転車に対する当たり屋については、初めての検挙となる。今回の事件は、被害者の相談を元に捜査を進め、犯罪が明らかになっていったものである。

【委員】

被害届が出されていない隠れた件数があるのか。それは、把握されているのか。

【警察】

今回の事件については、被害届が出ていないものもあり、他県の相談の状況を確認して、同種の相談があった場合に相談者に連絡をして、被害確認を行った。相談等がなければ、警察で把握するのは難しい。

【委員】

防犯カメラは、過去にはどのくらい設置されているか。

【警察】

設置状況については、永平寺町の役場や明新、東森田の自治会などに設置していただき、片町にも設置されている。

【委員】

反射材については、予算だけでなく企業や各種奉仕団体の協力はあるのか。

【警察】

県警の予算で購入した物の他、交通安全協会の協力により、反射材の確保をしている。

【委員】

反射材をもらっても捨ててしまうのはもったいないので、集まりの時に直接付けてしまうなど、必ず付けるようにする工夫をするとういと思う。

【警察】

交通事故と雪の関係ですが、2月の末に雪が降り凍結した日は、朝から多くの事故があった。ただ、スピードがそれほど出ていないということで、大きな事故には至っていない。雪の降り初めや予想外の凍結の際には、事故が増える傾向にある。

外国人の関係について、コロナの影響で帰国できない、入管の収容施設がいっぱいで釈放せざるを得ないこともあると聞いている。その場合、ビザもなく仕事ができないこともあり、そのような事情が若干影響しているのではないかと考える。

反射材について、配付してもなかなか付けてもらえないこともあり、シルバーカーや手押し車などの購入の際に、その場で反射材を貼る取り組みもしている。確実に外に持ち出す靴や自転車、杖、傘などに付けて、少しでも目立つ対策が必要であることから、取り組みを進めている。

【委員】

東京の区の取り組みで、特殊詐欺A Iアダプタを電話に取り付けて、振り込め詐欺の検挙に効果があったという話を聞いたが。福井県ではどのようなになっているのか。

【警察】

N T T東日本が提供しているサービスについて、品川区がアダプタ取り付け補助金を出している。アダプタ取付けには、初期費用、取り付け費用及び月額利用料が必要になる。

福井では、先月2月25日に、「地域の安全・安心に関する協定」という名称で、N T T西日本福井支店と福井県警察本部が協定を締結した。今後福井県についても、県警や県庁、市役所がタッグを組み、補助金制度やアダプタ取り付け等の様々なサービスを行う予定である。

【委員】

A Iアダプタとはこういった機能のものか。

【警察】

アダプタ自体は、電話機と同じような大きさのもので、電話機と配線

でつなげば設置できる。相手の言っていることをAIが解析し、会話の内容やキーワードなどから特殊詐欺に関係があると判断されれば、通話している本人や家族に通知するサービスである。

【委員】

福井県でも導入される予定はあるか。

【警察】

そうなっていくと思われる。NTT西日本でも導入はされており、実際に利用している家庭もある。今後は、このような制度を利用しやすい環境を、県警や自治体が整えていく必要があると考える。

(5) 代表者会議結果報告

(午後の部)

1 日時

令和4年3月2日(水)午後2時00分から

2 場所

福井警察署

3 出席者

- 協議会委員 4名
- 福井警察署 署長以下6名

4 内容

- (1) 協議会会長挨拶
- (2) 福井警察署署長挨拶
- (3) 業務報告

ア 生活安全課・刑事課関係

- (ア) 刑法犯の認知、検挙状況
- (イ) 特殊詐欺被害の認知状況
- (ウ) 声かけ・つきまとい事案の認知、検挙状況
- (エ) ストーカー・DV事案の認知、検挙状況
- (オ) 各種事故抑止・検挙対策の実施状況
- (カ) 各種犯罪の検挙状況

イ 交通課関係

- (ア) 令和3年中の交通事故発生状況
- (イ) 交通事故死亡現場の状況
- (ウ) 自転車教室
- (エ) 自転車利用者への啓発活動
- (オ) 体験型交通安全教室
- (カ) 反射材普及活動
- (キ) 新たな交通規制への対応
- (ク) 飲酒運転根絶に向けた活動



- (ケ) 飲酒運転取締り結果
 - (コ) 交通特殊事件の検挙
 - (ク) その他
 - (ク) 今後の方針
 - ウ 警備課・地域課関係
 - (ア) 大規模警備の完遂
 - (イ) 有事に備えた各種訓練の実施
 - エ 警務課関係
 - (ア) 職場執行能力の強化に向けた教養の推進
 - (イ) 将来の優秀な警察官確保に向けて
 - (ウ) 新型コロナウイルス感染症対策
- (4) 質疑応答

【委員】

小学生の見守り隊の方が、横断歩道の横に立っているが、歩行者と見守り隊を区別するためにも、見守り隊は腕章をつけなければいけないというルール等はないのか。また、歩行者と思われる人がいた時に、止まることで後ろからクラクションをならされる場合があるが、止まるか止まらないかの判断はどうしたらいいのか。

【警察】

見守り隊等の活動をわかり易く示すことができる物があるのであれば、使っていただいた方がいいと思う。また、横断歩道で止まり、後ろからクラクションを鳴らされたとしても、歩行者が渡らないことを確認した上で、速やかに発進すればいいと思う。

【委員】

横断歩道の横で立っているだけの場合は、止まらずにそのまま行けばいいのか。

【警察】

止まって、歩行者に横断を促しても渡らないのであれば、安全を確認した上、車を進めていただければよい。

横断歩道を渡ろうとする人がいるのであれば、止まらないと道路交通法違反になる。横断歩道は歩行者の為の場所なので、ドライバーの方は、歩行者を認めた場合には、横断させてあげるという行為をまずしてみるのが大事である。また、そういった意識を高めるために、広報啓発活動、または横断歩行者妨害等の交通取締活動を推進していく。

【委員】

慣れない道で、着雪で標識が見えず、右折禁止場所を右折してしまった場合、標識が見えなかったが為に起きてしまったことであるが、こういった対応になるか。

【警察】

交通反則通告制度があるので、取締りに納得がいかない場合は、その場

で申し立てていただくのがよい。標識が見えなかったことを現場で伝え、取締りに納得がいかないのであれば反則金を納めない、納めない場合は通常の手続きに入っていくという流れになる。

例えば、標識が木の陰になって見えずに取締りを受け、警察官が確認して見にくい事が確認されれば、一旦交付されているものでも無効にすることはある。取締りを受けた際に、着雪で見えなかったことを伝えてもらえば交付することはなく、見えない標識で無理矢理取り締まることはない。ただし、いつも通る道で規制を認知している場合は、取締りの対象となる。

【委員】

子どもの見守りをしている際、パトカーが回っている時は、車は確実に止まるが、パトカーがいなくなると、見守り隊のジャンパーを着て旗を出しても、車は子どもが渡っている横断歩道のギリギリまで来ることから、子どもだけでは危険だと感じる。パトカーがいつも回ってくれることに感謝している。

虐待の問題を新聞紙上でよく見かけるが、福井はどういった状態にあるのか。

【警察】

個々の家庭の中で、子どもに対する虐待がないとは言えない状態で、福井署としても、年に何件か取り扱っている。物を使っての虐待や度を越えたものであれば事件化することもある。また、児童相談所など行政機関との連携も常にとっている。

取り扱う事案については、危険性が高いか低いか等の最初の判断が大事であり、警察だけでなく児童相談所やカウンセラー等と連携し、親と引き離す必要があるか否かなどを判断しながら、初動的に対応している。警察が関わっていたにも関わらず防げなかったということがないよう、取扱いは慎重に行っている。

【委員】

悲惨な事件が無いように、我々地区民としても、近所でそのような事があれば気を使ってあげたいと思う。しかし、なかなか民間人が他人の所へ行くということではできないので、対応が難しいと感じている。

【警察】

虐待等について見聞きした場合は、通報してほしい。その場合、通報者や通報内容については口外することはない。

横断歩行者の関係であるが、車は停止線で止まらなければならない、そういう指導もしている。

【委員】

質問の交差点については、西側のみ横断歩道がない十字路交差点で、東から西進してきた車は、横断歩道が交差点の先にあるため、本来なら交差点の手前で止まるべきところを、交差点を抜け、横断歩道の手前ギ

リギリまで来てから止まることが多い。

【警察】

運転者の心理としては2つ考えられる。まず、横断歩行者に早く渡ってほしいと思う気持ちがあるのが1つ、もう1つは、止まる場所が交差点の真ん中である場合、対向する右折車の妨げにならないよう、なるべく横断歩道の近くに止まり、対向車が右折するスペースを空けるよう配慮したということである。どのような場合であっても、横断歩道のところで旗を出して、しっかり「止まってください。」という意思表示をして、歩行者が渡り切った後に車を通してあげるといような意識で活動してほしい。

(5) 代表者会議結果報告